

令和7年度事業計画

介護老人保健施設 あじさい

○入所部門（短期入所療養介護・介護予防短期入所療養介護を含む） 定員 80名

令和6年度 途中実績(2月末時点) 入所67.6名(平均介護度2.8)短期入所0.8名(平均介護度3.0)
平均利用日数(合計)68.4名 稼働率 85.5%

令和7年度 数値目標 稼働率 90%

【在宅復帰・在宅療養支援等指標】※最高:90点 目標:指標60点以上を確保

A 在宅復帰率	50%以上【20点】	30%以上【10点】	30%以下【0点】
B ベッド回転率	10%以上【20点】	5%以上【10点】	5%未満【0点】
C 入所前後訪問指導割合	35%以上【10点】	15%以上【5点】	15%未満【0点】
D 退所前後訪問指導割合	35%以上【10点】	15%以上【5点】	15%未満【0点】
E 居宅サービスの実施数	3サービス【5点】	2サービス【3点】	1サービス【2点】
F リハ専門職の配置割合	5人以上【5点】	3人以上【3点】	3人未満【0点】
G 支援相談員の配置割合	3人以上【5点】	2人以上【3点】	2人未満【0点】
H 要介護4・5の割合	50%以上【5点】	35%以上【3点】	35%未満【0点】
I 喀痰吸引の実施割合	10%以上【5点】	5%以上【3点】	5%未満【0点】
J 経管栄養の実施割合	10%以上【5点】	5%以上【3点】	5%未満【0点】
●基本型→20点以上 ●加算型→40点以上+地域貢献活動			
●強化型→60点以上+充実したリハ ●超強化型→70%以上			

【突き当りの在宅復帰・在宅療養支援等指標】

R 5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月当指標	48	48	49	46	46	46	48	58	58	58	53	36
R 6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月当指標	53	43	49	49	49	49	49	59	59	55	45	未

○通所リハビリテーション部門(介護予防通所リハビリテーション含む) 定員60名

令和6年度 途中実績(2月末時点)

平均利用実績(日) 要介護者 35名(平均介護度 2.6) 要支援者 6名

合計平均利用者数(日数) 40.8名 稼働率 68 %

令和7年度 数値目標

平均稼働率 75 % 45 名 / 日

介護老人保健施設 あじさい 令和7年度職員目標

○介護保健施設の役割である「在宅復帰・在宅療養支援機能」を維持しつつ、多職種協働によるサービスの質の向上を図ります。

○強化型算定施設に向け、チームでの稼働率向上・在宅復帰への支援を行います。

○利用者が医療を必要とした場合、適切な対応が行われるように地域の医療連携を強化します。

○リハビリテーション・口腔・栄養の一体的取り組みを推進し自立支援・重度化防止を効果的に進めます。

○新興感染症や自然災害に関するこれまでの取組を振り返り、介護サービスが継続的に提供できる体制(事業継続計画)を構築していきます

○身体拘束ゼロ宣言を継続し、安全に安心して過ごして頂けるサービスを提供します。

ねむのき令和7年度事業計画

【部門】介護老人福祉施設・短期入所生活介護（介護予防含む）

令和6年度数値目標

- ・従来型1日の平均利用者数 48名 稼働率 96%
- ・ショートステイ1日の平均利用者数 8名 稼働率 80%

実績（令和6年4月～令和7年2月）

- ・従来型1日の平均利用者数 44.75名 稼働率 89.5%
- ・ショートステイ1日の平均利用者数 8.48名 稼働率 84.8%

令和7年度部門目標

・職員同士の良好な関係性を築けるよう、常に声を掛け合い、笑顔で生き活きとやりがいをもって働ける職場環境をみんなで作って行く。

令和7年度数値目標

- ・従来型1日の平均利用者数 48名 稼働率 96%
- ・ショートステイ1日の平均利用者数 8.5名 稼働率 85%

【部門】地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

令和6年度数値目標

- ・1日の平均利用者数 19.0名 稼働率 95%

令和6年度実績（令和6年4月～令和7年2月）

- ・1日の平均利用者数 19.0名 稼働率 95%

部門目標

・入居者の個性を大切にし、安心して過ごせる暮らしを提供する。

数値目標

- ・1日の平均利用者数 19.0名 稼働率 95%

【部門】通所介護（総合事業含む）

令和6年度数値目標

- ・稼働率 77%

実績（令和6年4月～令和7年2月）

- ・平均利用者数 23.5 名 稼働率 67.1%

令和7年度部門目標

- ・チームワークを持って利用者の気持ちに寄り添ったサービスを提供する。
- ・自宅で安心して生活が出来るようにリハビリを通して体力の維持向上を目指す。
- ・感染対策、BCP 対策の強化に取り組む。

令和7年度数値目標

- ・稼働率 77%

【部門】訪問介護（総合事業含む）

令和6年度数値目標

- ・時間数 350 時間／月

実績（令和6年4月～令和7年2月）

- ・時間数 258 時間／月

令和7年度部門目標

- ・利用者に寄り添った支援を行い、安心して生活ができるように支援する。
- ・事業所内での報連相を行い、連携をとる。
- ・業績アップ。

令和7年度数値目標

- ・時間数 300 時間／月

【部門】居宅介護支援

令和6年度数値目標

- ・介護給付 月平均 175 件
- ・予防給付 月平均 20 件以内

※要支援者の人数を制限し、要介護者を担当していく

実績（令和6年4月～令和7年2月）

- ・介護給付 月平均 170.2 件
- ・予防給付 月平均 15.6 件

令和7年度部門目標

- ・利用者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援する。
- ・利用者数の安定確保に努める。
- ・地域社会への貢献を行う。

令和7年度数値目標

- ・介護給付 月平均 175 件
- ・予防給付 月平均 20 件以内

【部門】認知症対応型通所介護（介護予防含む）

令和6年度数値目標

稼働率 75%

実績（令和6年4月～令和7年2月）

- ・稼働率 55.58%

令和7年度部門目標

- ・個性を大切にし、ひとりひとりに合ったサービスを提供する。
- ・祭りや協議体など地域行事に参加することで地域との関りを深めていく。
- ・キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座などに参加し貢献していく。

令和7年度数値目標

- ・稼働率 75%

こでまり令和 7 年度事業計画

令和 6 年度実績 (令和 6 年 4 月～令和 7 年 2 月)

入居稼働率 98.8% (令和 6 年度数値目標 98%)

月の平均利用者数 47.3 名 (定員 48 名)

平均介護度 2

令和 7 年度数値目標

入居稼働率 98%

部門目標

介護目標 入居者様の生活がより豊かになるよう皆で考え、取り組み、支援していきます。

看護目標 入居者様が安全に生活できるように体調管理に努めます。

令和 7 年度 LaKiKi 事業計画

令和 6 年度目標

総稼働率 60% 毎月 270 万の売り上げを目指す。

令和 6 年度実績 (R7.2 月まで)

総平均利用者数 11.3 名 午前平均利用者数 11.3 名 午後平均利用者数 11.6 名

総延べ利用者数 5264 名

総稼働率 57.6%

令和 7 年度目標

- ・総稼働率 60%以上、毎月 270 万の売り上げを目指す。
- ・平均利用者数 12 名、総延べ利用者数 5480 名を超えるようにアプローチしていく
- ・利用者の継続利用に繋げ、満足度向上に向けたリハビリを提供出来るようスタッフ間での連携を密にしていく
- ・利用者増加による業務のスリム化、業務の効率化を図れるよう話し合う機会を積極的に行う
- ・各法人内の事業所間の連携を積極的に図り、各事業所の売り上げに貢献できるように行う

令和7年度 生計困難者に対する相談支援事業

(ふくおかライフレスキュー事業) 事業計画書

社会福祉法人 那珂川福祉会

1 はじめに

社会福祉法人那珂川福祉会(以下、法人という)は、第二種社会福祉事業「生計困難者に対する相談支援事業」(ふくおかライフレスキュー事業)を実施する。

この事業は、社会福祉法人として目に見える形で公益活動を実践するため、地域の援護を必要とする方に対する相談活動を活発化し、関係機関との連携を十分に行い、相談活動を行う中で、援護を必要とする方の心理的不安の軽減を図とともに、必要な制度やサービスにつなぐこととする。また、生活保護等の既存制度では即応できない方で、経済的困窮により生活必需品や社会的サービスの利用が阻害されている方がいる場合、その費用等の全部または一部を現物により支援する経済的援助を行う。

2 サポーターの配置並びに総合生活相談活動

ふくおかライフレスキュー事業を実施するために、ねむのきにサポーターを配置し、地域で生活課題を抱える方の相談が起こった際に対応し、課題の解決に努める。

3 経済的援助

援助を必要とする方からの相談を重ねる中で、経済的援助の必要性を判断したサポーターは、相談内容に関する資料を作成し、ねむのき施設長(以下、施設長という)に報告するものとする。施設長は、サポーターからの報告に基づき経済的援助の可否を決定する。

4 地区連絡会、研修会への参加

サポーターは、課題の共有や相談援助技術の向上を目的として各種研修会等に参加する。

- (1) サポーター養成研修会
- (2) 各地区連絡会
- (3) 相談援助技術研修会(事例検討会)

令和7年度「ゆめ広場」の事業計画

事業の背景及び目的	近年のコミュニケーション不足により人間関係等の不適応が増加し、それに伴い小中学校の不登校児童生徒数は年々増加傾向にある。また SNS の普及が子どもたちの生活に大きな影響を与えている。家庭内においても生活環境の変化や親子関係をめぐる問題等により「相対的貧困」すなわち一般的に子ども達が受けられることが受けられない(教育、部活等々)状況にある子どものことも課題視されており、那珂川市も例外ではなく、地域での子どもや保護者の支援、見守り、居場所作りが必要となっている。
事業の必要性	子ども支援は親支援、家庭支援でもあり、少人数での関わりや個別サポートを必要とすることが多い。子ども達にとって地域の中の「心の居場所」であり、保護者支援もできる「ゆめ広場」事業は必要とされている。
事業の目標	「ゆめ広場」で学習・生活支援を行なうことで、子ども達に寄り添い、心の安定と自己肯定感を高めることで、自立の援助に努める。地域の大人の関わりにより子ども達の困り感を軽減していく。一人でも多くの子どもが不登校や悩みを解消し、自分の進路や将来に向け夢や希望を持つことを目指す。
7年度の内容	・教育委員会、こども応援課、地域等に「ゆめ広場」の理解を得る。 ・「生活困窮世帯の子どもの学習・生活支援」事業を受け、不登校や生活困窮世帯の子どもを対象に学習の場を提供。大学生スタッフとの関わりは進路を考える中学生にとって貴重な時間となる。 学習支援：毎週火曜日 18 時 30 分～20 時 30 分(中学生以上) 毎週土曜日 10 時～12 時(小学生以上) 生活支援：毎週月曜日 16 時 30 分～18 時 第 4 土曜日 12 時 00 分～13 時 30 分(まなびや食堂) 子ども達が行きやすい環境を作り、「心の居場所」とする。 ・子どもや保護者の相談を受け必要であれば関係機関につなげる。 ・第 4 土曜日 12 時～13 時 30 分はまなびや食堂を開催。 ・月 1 回資源物回収を行ない、その収益は「ゆめ広場」でのイベントやおやつ等の活動費に充てる。 ・地域の祭りへの出店で、住民の方々との交流を図る。
事業の効果及び展望	学校や家庭とは違う「ゆめ広場」での時間は、子ども達の心の居場所であり、活力となる。相談日を設け、課題解決に向けたサービス等の情報提供も行なっていく。